

研修参加報告書

令和 2年10月27日

会 派 名 無会派
会派代表者 尾関 昭

(参加者： 尾関 昭)

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

①

年 月 日	令和2年10月5日(月)、6日(火)
研修時間	(5日) 13:00~16:35 、(6日) 9:00~12:20
研修場所	全国市町村国際文化研修所
研修内容	令和2年度 トップマネジメントセミナー (講師：岡本 全勝 氏, 森川 博之 氏, 片岡 聡一 氏, 中村 朱美 氏)

研修参加報告書

①

年月日	令和 2年10月 5日 ~ 6日 (月・火)
研修時間	(5日) 13:00~16:35、(6日) 9:00~12:20
研修場所	全国市町村国際文化研修所 (JIAM)
研修内容	令和2年度 トップマネジメントセミナー (講師: 岡本 全勝 氏, 森川 博之 氏, 片岡 聡一 氏, 中村 朱美 氏)
■目的 これまで経験された数々の非常事態の経験を踏まえ、日本が新常識を取り入れた新しい社会に向かうため、行政は何をしなければならないのか、また非常時、柔軟に対応できる組織であるためには何が必要か、様々な専門分野の講師から話を聞き、非常事態にも負けない自治体を作るために大切なことを学ぶ。	
■内容 1. 岡本 全勝 氏 復興庁顧問 (元事務次官) 東日本大震災から学んだこと —想定外は起こる— <ul style="list-style-type: none">・前例のないことをする。→被災者生活支援チーム (緊急災害対策本部)・「何をしなければならないのか」がわからない事実。 → 何からするか。何ができるか。誰を動かすか。・自治体の危機管理として、しなければならないこと → 情報の収集: 分かることと分からないこと 情報の配分: 誰に何を伝えるのか 課題の整理: 何をしなければならないのか、何ができるのか 誰が何を : あなたがすべきこと、部下がすべきこと 全体像把握: 次を想像、想定する 2. 森川 博之 氏 東京大学大学院工学系研究科 教授 デジタルが社会・産業・経済・地方を変える <ul style="list-style-type: none">・世界の経済成長率はリーマンショック時以上の下落となる見込み・今後の流れ (社会観/世界観の変化)<ul style="list-style-type: none">グローバル → ローカル市場 → 分配 (公益)都市集中 → 地方分散職能型 → 職務型効率 → 冗長性・【種の起源】同様: 最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残るのは変化できる者である。	

・デジタル変革のポイント

1. ペインポイント（悩み、問題、課題、無駄、非効率等）を深く掘り下げる
2. ストーリー性を重視する（企業、地方、国、社会のレベルにも抽象化する）
3. エコシステムを創り上げる
4. スモールファースト（小さく始める）を実践する
5. フェイルファースト（早めに失敗する）を実践する
6. 挑戦する精神を持った人材を活用する
7. 評価の仕組みを考慮する

3. 片岡 聡一 氏 岡山県総社市 市長

大災害は市役所の実力テスト

- ・平成 30 年 7 月豪雨の対応を行った市長として…

災害時対応：行政はどうしても公平平等を重んずるが、それでは対応は後手に回り状況を悪化させてしまう。という事実。

情報は消防長に一本化した。

意地とプライドが邪魔をする。（判断の鈍化の恐れ）

- ・発災時：避難指示を出したのち、市民約 7 万人のうち 8,600 人が避難した。（約 2 時間）市の要請に対し、47 町内会長のうち、2/3 の方が賛同し実働された。同意されなかった残りの 1/3 の町内会に対しでは、市職員が対応した。（河川は決壊はせずオーバーフロー）

4. 中村 朱美 氏 株式会社 minitts 代表取締役（佰食屋オーナー）

逆境に負けない強い組織の在り方 ~with コロナ after コロナの時代に向けて~

- ・京都で事業経営する、1 日 100 食限定、ランチ限定の「佰食屋」

徹底した役割分担と責任の明確化

会社（役員）：集客・広報・営業活動に責任

従業員：現場・お客様対応・仕込み・調理・店舗管理に特化

※【役割分担】という名の社員教育で、従業員が自分の頭で考える。

- ・仕事を充実させるための取り組み

出勤・退勤時間は自分で選ぶ。公休の指定も自ら。

※【自己決定権】で従業員が『この会社は私の会社』と考えるようになる。

- ・軍隊アリ経営 → 小さな組織で黒字化を目指す。拡大ではなく同規模の事業所による全国展開へ。

■所感

・広い知見・洞察・視聴を通して、コロナ禍、その後の展開と市民へ意識させることの重要性が見いだせた。

・有事におけるリーダーの在り方、前例がないものに対して、果敢に取り組む情熱と立場・立ち位置の再認識、心の持ち様を学ぶ事が出来た。

・行政に於いても民間と肩を並べるスピード感ある働き方改革について、大きなヒントを得られる機会に恵まれ、大いに今後の参考となった。

